

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
人間と社会	1.人間の尊厳と自立	山口 敏伸 (社会福祉士)	講義 演習	開講期	前期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	[授業の目的・ねらい] ・人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。
	[授業全体の概要] 1.人間の尊厳と人権・福祉理念の理解 2.自立の概念の理解
	[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1.人間の尊厳の意義と利用者主体について学び、利用者の人権や権利侵害、権利擁護について理解する。 2.介護を必要とする人の自立を理解し、必要とされる自立支援のあり方を理解する。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	人間の尊厳と利用者主体		
2	/	人権思想の潮流とその具現化		
3	/	人権や尊厳に関する日本の諸規定		
4	/	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷	人は人をどう援助しようとしてきたか	
5	/	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷	戦後の新たな福祉のあり方への模索	
6	/	人権尊重と権利擁護		
7	/	人権思想から人間の尊厳について学ぶ		
8	/	介護保険法における尊厳と自立を考える		
9	/	自立の概念の多様性		
10	/	自立とは		
11	/	介護を必要とする人々の自立と自立支援		
12	/	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立		
13	/	自立支援の関係性		
14	/	利用者主体の主体性を大切にされた声かけを考える		
15	/	利用者の自立支援について考える		

評価方法	① 出席状況 ②授業態度 ③終講試験 総合評価
必須参考図書	<必須図書>最新介護福祉士養成講座! 「人間の理解」第2版 中央法規出版 <参考図書>
その他	

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
人間と社会	2.人間関係とコミュニケーション	占部 尊士 (社会福祉士) 徳淵 義信 (社会福祉士)	講義 演習	開講期	通年
				時間数(回数)	60(30回)
				単位数	2

授業概要など	<占部 尊士>
	[授業の目的・ねらい] ・対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。
	[授業全体の概要] ・人間関係の形成とコミュニケーションの基礎
	[授業終了時の達成課題(到達目標)] ①人間関係の中で自分と他者を理解することを学び、人間関係の形成に必要な自己覚知や自己開示について理解する。 ②コミュニケーションの特性や構造について学び、言語的・非言語的コミュニケーションについて理解する。 ③組織の存在とコミュニケーションの特徴について学び、どのようなコミュニケーションが必要か理解する。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	人間の誕生と介護の関係・自分と他者の理解		
2	/	発達心理学からみた人間関係・社会心理学からみた人間関係		
3	/	人間関係とストレス		
4	/	自分と他者の認識のずれについて考える		
5	/	少数派が集団を変えるために必要なことを考える		
6	/	コミュニケーションの概念・基本構造・手段		
7	/	関係性によるあいさつの違いと、含まれるメッセージについて考える		
8	/	非言語の種類とメッセージについて考える		
9	/	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション	対人援助における基本的態度	
10	/	援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則	バイステックの7つの原則について考える	
11	/	傾聴について考える		
12	/	組織の条件とコミュニケーションの特徴		
13	/	組織における情報の流れ		
14	/	組織において求められるコミュニケーション		
15	/	まとめ		

評価方法	① 出席状況② 授業態度 ③終講試験	総合評価
必須参考図書	<必須図書>最新介護福祉士養成講座I 中央法規出版 「人間の理解」第2版 <参考図書>	
その他		

授業概要など	<p><徳淵 義信> [授業の目的・ねらい] ・介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の概要] ・チームマネジメント</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 1.介護実践にチームマネジメントが必要とされる背景を理解し、基本となる考え方を理解する。 2.ケアを展開するためのチームのあり方、必要な取り組み、又それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解する。 3.キャリアに応じて求められる実践力、人材育成のしくみを学び、自身のキャリアを想定した自己研鑽のあり方・姿勢を理解する。 4.組織がどのような役割・機能を果たしているか学び、どのように管理されているか理解する。</p>			
	授 業 計 画			
回	月/日	テーマ	内容	備考
16	/	ヒューマンサービスとしての介護サービス		
17	/	介護現場で求められるチームマネジメント		
18	/	介護実践におけるチームマネジメントへの取り組み		
19	/	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み		
20	/	チームでケアを展開するためのマネジメント		
21	/	チームの力を最大化するためのマネジメント		
22	/	リーダーシップ・フォロワーシップについて考える		
23	/	介護福祉職のキャリアと求められる実践力		
24	/	介護福祉職としてのキャリアデザイン		
25	/	介護福祉職のキャリア支援・開発		
26	/	自己研鑽に必要な姿勢		
27	/	介護サービスを支える組織の構造		
28	/	介護サービスを支える組織の機能と役割		
29	/	介護サービスを支える組織の管理		
30	/	まとめ		
評価方法	①出席状況 ②授業態度 ③終講試験 総合評価			
必須参考図書	<必須図書>最新介護福祉士養成講座Ⅰ 中央法規出版 「人間の理解」第2版 <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
人間と社会	3.社会の理解Ⅰ	山口 敏伸 (社会福祉士)	講義 演習	開講期	前期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>① 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に理解する。 ② 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケア、又日本の社会保障の基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の概要]</p> <p>① 社会と生活のしくみの理解。 ② 地域共生社会の実現に向けた制度や施策の理解。 ③ 社会保障制度の理解。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>① 生活と働き方の変化と、障害学習・地域活動への参加について理解する。 ② 地域福祉、地域共生社会の基礎的理解と地域包括ケアの背景、また介護のあり方について理解する。 ③ 社会保障の目的や機能をふまえ、それぞれの社会保障制度の概要を理解する。</p>

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	生活の基本機能・ライフスタイルの変化		
2	/	家族の機能と役割		
3	/	社会・組織の機能と役割		
4	/	地域・地域社会・地域社会における生活支援		
5	/	地域福祉の発展・地域共生社会		
6	/	地域包括ケア①		
7	/	地域包括ケア②		
8	/	社会保障の基本的な考え方①		
9	/	社会保障の基本的な考え方②		
10	/	日本の社会保障制度の発達		
11	/	日本の社会保障制度のしくみ①		
12	/	日本の社会保障制度のしくみ②		
13	/	現代社会と社会保障制度①		
14	/	現代社会と社会保障制度②		
15	/	まとめ		

評価方法	出席日数・参加態度・筆記試験を総合評価する。
必須参考図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座2 中央法規出版 「社会の理解」第2版 <参考図書>
その他	

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
人間と社会	5.文章表現法	横尾 文子	講義 演習	開講期	前期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	[授業の目的・ねらい]
	①介護実践を支えるため教養を深め、総合的な判断力および豊かな人間性を養う。
	②コトバでは伝えにくい「心」「感謝の気持ち」を、文章で表現する大切さを学ぶ。
	③的確な文章表現の手法を習得する。
[授業全体の概要]	
①社会人として必要な文書力・表現力を学ぶ。	
[授業終了時の達成課題(到達目標)]	
①「自分の世界」を楽しく、日本語で表現するコツを習得する。特に、社会人になったときに困らないような文章表現を身につける。	

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	楽しい文章表現① (「ガバイばあちゃん語録」より、コトバの威力を考える)		
2	/	楽しい文章表現② (敬語の種々に親しみ、婉曲表現の余力を知る)		
3	/	正確な文章表現① (昭和天皇の有明海御製「めづらしき」より、コトバの選択を学ぶ)		
4	/	正確な文章表現② (マララさんのノーベル平和賞受賞記念講演から、主張の方法を学ぶ)		
5	/	書簡の約束事① (季節の「はがき」を友人に送る)		
6	/	書簡の約束事② (近況を恩師に「手紙」で知らせる)		
7	/	報告文①(日常を簡潔な文章で表現)		
8	/	報告文②(要を得た実習日誌の書き方)		
9	/	公式文書の作成		
10	/	レポート①(感想文とレポートの違い)		
11	/	レポート②(段落の役割)		
12	/	小論文①(起承転結の構成、「はじめに」と「まえがき」の違い)		
13	/	小論文② (問題提起・意見提示・展開・結論、「だ・である」調が原則)		
14	/	記録文①(友人をインタビュー、聞くコツ)		
15	/	記録文②(友人のインタビュー記事を作成)		

評価方法	授業への参加度・レポート・筆記試験の総合評価とする。
必須参考図書	<必須図書> 適宜資料を配布する。 <参考図書>
その他	

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
人間と社会	6.キャリア入門Ⅰ	大谷 久也 吉村 理英 (専任教員)	講義 演習	開講期	通年
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	[授業の目的・ねらい] ①「自分を知る」「社会を知る」「キャリアの決定方法を知る」を通して「生きること・学ぶこと・働くこと」についての理解を深める。
	[授業全体の概要] ①授業を通して学生生活で何をするのかを明確にし「考える」介護福祉実習や多くの経験を通して、自分の可能性を探り「試す」なりたいたい自分になるために挑戦「挑む」具体的目標に向けて活動する「磨く」というサイクルを身につける。 ②課外講座やアクティブラーニングを通して課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ。
	[授業修了時の達成課題(達成目標)] ①介護福祉専門職として「自己理解・他者理解」を深め「自分」を人にわかりやすく伝える力を身につけ自分とは異なる価値観・経験をもつ人の話に耳を傾け自分のキャリア形成に生かすこと、社会と繋がるために必須のコミュニケーション能力をグループワークやディスカッションを通して磨く。 ②介護福祉士として働く自分がイメージできる。

授業計画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	キャリアの意味を理解する		
2	/	クラス運営、週番の役割について		
3	/	宿泊研修の目的意義について		
4	/	宿泊研修の役割について		
5	/	新入生宿泊研修(コミュニケーション)①		
6	/	新入生宿泊研修(グループワーク・ディスカッション)②		
7	/	新入生宿泊研修(自己理解・他者理解)③		
8	/	新入生宿泊研修(自分の価値観を知る)④		
9	/	ビジネスマナー (社会人、医療福祉に携わるためのマナー)		
10	/	認知症理解(全国キャラバンメイト) 認知症サポーター養成研修		
11	/	介護福祉士について理解する(福岡介護フェスタ)		
12	/	介護福祉士について理解する(福岡介護フェスタ)		
13	/	介護福祉士について理解する (佐賀サポートセンターいきいき館祭)		
14	/	介護福祉士について理解する (佐賀サポートセンターいきいき館祭)		
15	/	自分の目指す介護福祉士像をイメージする		

評価方法	①出席及び受講態度 ②レポート提出
必須参考図書	<必須図書> 適宜資料配布 <参考図書>
その他	

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
人間と社会	8.情報科学	福島 恵美子 (マイクロソフト 認定トレーナー)	講義 演習	開講期	前期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	[授業の目的・ねらい]
	①介護実践を支える教養を高め、支援に必要な基礎的な知識を身につける。 ②パソコン操作の基本を学び、レポート作成や実社会の中で活かせるようになる。
	[授業全体の概要]
	①パソコンの操作の基本、ワード、エクセル、パワーポイントおよびその他のコンピュータ操作技術を学習する。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ①レポートの作成、行事案内、表計算およびプレゼンテーション資料などの作成ができる。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	情報と情報処理(講義)		
2	/	インターネット(講義)		
3	/	WORD 演習①		
4	/	WORD 演習②		
5	/	WORD 演習③		
6	/	WORD 演習課題作成		
7	/	POWER POINT 演習①		
8	/	POWER POINT 演習②		
9	/	POWER POINT 演習③		
10	/	POWER POINT 演習課題作成		
11	/	EXCEL 演習①		
12	/	EXCEL 演習②		
13	/	EXCEL 演習④		
14	/	EXCEL 演習課題作成		
15	/	まとめ		

評価方法	授業態度・演習状況と内容 提出課題等より総合評価
必須参考図書	<必須図書> 適宜資料配布 <参考図書>
その他	

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
人間と社会	10.セラピューティックケア論	水上 尚子 (セラピスト)	講義 演習	開講期	後期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	[授業の目的・ねらい]
	①福祉の現状を踏まえ、セラピューティック・ケアを習得し、介護のみならずQOLの向上を目指した支援にも役立たせる事ができるよう、その汎用性まで包括し学習する。
	[授業全体の内容の概要]
	①セラピューティック・ケアの沿革と基本理念に習熟し、セラピストとしてセラピューティック・ケアの施術ができる。また接遇、傾聴等の知識があり対応でき、様々な福祉分野や現場において、セラピューティック・ケアを生活支援技術として活かす基礎を構築する。セラピューティック・ケア介護セラピストの資格取得を目指す。
[授業終了時の達成課題(到達目標)]	
	①セラピューティック・ケアの基本技術とセラピストとしての基礎を習得している。
	②セラピューティック・ケアの知識と施術方法ができる。
	③セラピューティック・ケアの知識と技術を介護現場で活かすことができる。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	オリエンテーション、DVD視聴(PV、ロクイチ)		
2	/	理論：DVD視聴(基本編) 実技：ネック&ショルダーケア(フルバージョン)		
3	/	理論：QOL、スピリチュアルケア 実技：ネック&ショルダーケア、ハンド&アームケア		
4	/	理論：施術上の留意点、感染の管理と感染予防、 手と腕の筋肉と骨格		
5	/	実技：ハンド&アームケア		
6	/	理論：“手当て”の効用、首と肩の筋肉と骨格 実技：ネック&ショルダーケア		
7	/	理論：相乗効果(呼吸・音楽・香り)、脚の筋肉と骨格 実技：レッグケア		
8	/	理論：セラピューティック・ケアの事例時の対応		
9	/	実技：ネック&ショルダーケア、ハンド&アームケア、 レッグケア		
10	/	理論：セラピューティック・ケアの効果、禁忌事項等 実技：ポイントレッスン		
11	/	実技：ネック&ショルダーケア、ハンド&アームケア、 レッグケア		
12	/	実技認定テスト		
13	/	実技：ネック&ショルダーケア、ハンド&アームケア、 レッグケア、腰のケア		
14	/	学外学習について		
15	/	まとめ 実技：3つのスキル確認		
評価方法	基本技術、周辺基礎知識を修得し、個別的対応が出来るようになる。 理論テスト(50%) 実技認定テスト(50%)			
必須参考図書	<必須図書> 「セラピューティック・ケア介護セラピスト 養成テキスト」 日本セラピューティック・ケア協会 <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
人間と社会	11.レクリエーション指導法	甲 鶴子 (大川レクリエーション協会)	講義 演習 実習	開講期	通年
				時間数(回数)	60(30回)
				単位数	2

授業概要など	[授業の目的・ねらい]
	①人生の中で生活を楽しむレクリエーションは重要な意味を持つことを理解する。
	②レクリエーションを提供する自分自身も参加するプレイヤーになるのが基本であるから、楽しめるのだという点を体験的に確認する。
	③利用者の希望を踏まえレクリエーション支援計画の立案・実施・評価ができる。
	④高齢や障害のある利用者を理解すると共に、心身の状況に応じたレクリエーションプログラムの提供ができる。
⑤対象者によって様々なレクリエーションがあり、特定の枠組みにははめられないことを理解する。	
[授業全体の概要]	
①アクティブラーニングを活用し主体的に授業に参加し、レクリエーションを楽しむ体験を折り込んだ学習方式	
②事例、ロールプレイ、グループによる討議や発表など学生参加型の授業を中心に行う。	
[授業終了時の達成課題(到達目標)]	
①利用者を取り巻く環境や、状況をアセスメントした上で、レクリエーション計画を立案し、実施・評価することができる。	
②利用者一人ひとりの心身に合った、レクリエーションを提供できる。	

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	レクリエーションを学ぶにあたって		
2	/	レクリエーション支援とは		
3	/	レクリエーション・インストラクターの役割とは		
4	/	子育て支援から高齢者元気作りまで(地域での実践を通して)		
5	/	対象者の心の元気作りの課題及び、心の元気と地域のきずな(地域での実践を通して)		
6	/	健康な高齢者向けモデル・プログラムの習得		
7	/	大川市 生きがいデイサービス実践例を通して①		
8	/	レクリエーションにおけるリスクマネジメントの対処法		
9	/	大川市 生きがいデイサービス実践例を通して②		
10	/	グループレクリエーションプログラム記録用紙の説明		
11	/	グループレクリエーションプログラム記録用紙の説明(入所)		
12	/	アイスブレイキング・モデル(実践を通して)		
13	/	高齢者施設(介護老人福祉施設・グループホーム)の実践を通して		
14	/	グループレクリエーションプログラム記録用紙の説明(入所)		
15	/	障害者向けプログラム		

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
16		通所介護・通所リハビリテーションでのレクリエーション支援		
17		障害者スポーツ①②		
18		障害者スポーツ③		
19		段階をおった成功体験ができるようにレクリエーション活動を展開する方法		
20		レクリエーション活動を対象者にあわせて変化させる方法		
21		CSS プロセス、相互作用を促進させる方法		
22		子供向けモデル・プログラムの習得		
23		アイスブレーキング・モデル(様々なゲームを通して)		
24		障害児親子体操教室「ハム太郎クラブ」の実践を通して		
25		生きがいデイサービス実践例を通して ケア・ボックス①		
26		生きがいデイサービス実践例を通して ケア・ボックス②		
27		高齢者入所施設でのレクリエーション支援		
28		グループホームでのレクリエーション支援		
29		障害者支援施設でのレクリエーション支援		
30		レクリエーションインストラクターとして		
評価方法	①出席日数②授業参加態度③中間試験④終講試験以上、総合評価			
必須参考図書	<必須図書>楽しさを通した心の元気づくり・レクリエーション支援の基本の理論と方法 日本レクリエーション協会 2017年 <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
介護	12.介護の基本Ⅰ	大谷 久也 (専任教員・介護福祉士)	講義 演習	開講期	通年
				時間数(回数)	60(30回)
				単位数	2
実務経験：介護福祉士として臨床経験8年・介護福祉士養成校教員経験24年					

授業概要など	<目的・ねらい>
	<p>1.これまでの介護の歴史や現代の介護問題の背景を理解した上で、「介護福祉士とはどのような存在になることを期待されるか」という社会的役割を理解する。</p> <p>2.人間理解を基盤とし「介護を必要とする人」が主人公であり、生活者の視点で物事を見ることを学ぶとともに、人間の尊厳や自立・自律を支える人権擁護の視点や職業倫理を身につけ、実際の支援現場に生かせるセンスを磨く。</p> <p>3.介護を必要とする様々な人たちの「その人らしい生活を支援する」介護実践を支える基礎的な知識と幅広い生活支援のための他専門職との連携の必要性を学ぶ。</p>
	<p><全体の概要></p> <p>・今、目の前に起きている、人類が初めて直面する長寿社会の介護問題をしっかりと認識し、その最前線で働く者として、利用者の抱える問題状況を深め分析し、社会に向かって問題提起できる存在となること、またこれからの社会に求められる介護福祉士として、新しい介護実践に積極的に挑戦できる介護福祉士となるための姿勢や基礎知識を身につける。</p>
	<p><終了時の達成課題(到達目標)></p> <p>1.介護の歴史や現代の介護問題を理解し、介護福祉士を取り巻く社会状況を認識できる。</p> <p>2.介護の社会化の背景や少子高齢化社会を担う専門職として、介護福祉士に求められる社会的役割を理解し、人間の尊厳を支える介護福祉士の専門性やより高い倫理の確立に向けて努力できる。</p>

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考	
1	/	アイスブレイキング・オリエンテーション			
2	/	自立に向けた介護とは	介護の成り立ち、概念・定義		
3	/	自立に向けた介護とは	介護の見方・考え方の変化 ほか		
4	/	「生活支援」としての介護	介護の専門性		
5	/	「生活支援」としての介護	利用者に合わせた生活支援		
6	/	「生活支援」としての介護	「自立」と「自立」に向けた支援		
7	/	「生活支援」としての介護	介護サービスのあり方		
8	/	「生活支援」としての介護	自らの「介護観」を育む重要性 ほか		
9	/	「生活支援」としての介護	グループワーク		
10	/	介護を必要とする人の理解	私たちの生活の理解		
11	/	介護を必要とする人の理解	グループワーク		
12	/	介護を必要とする人の理解	高齢者の暮らしを支える介護		
13	/	介護を必要とする人の理解	障害をもった人の暮らしを支える介護		
14	/	「その人らしさ」の理解			
15	/	「生活ニーズ」の理解			
評価方法	①出席状況 ②授業態度 ③課題レポート ④筆記試験(中間・終講) を総合評価する				
必須参考図書	<p><必須図書> 最新介護福祉士養成講座 3 中央法規 「介護の基本Ⅰ」 最新介護福祉士養成講座 4 中央法規 「介護の基本Ⅱ」</p> <p><参考図書></p>				
その他					

授業概要など	<p><全体の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職である介護福祉士の現代の介護問題への深い理解や、ICFの考え方に基づいた人間の尊厳と自立（自律）を支える介護の課題を踏まえ、介護を必要とする様々な人々の生活の現実と、それを支える支援の在り方について、事例を通し考えるとともに、介護実践を単なる行為としてではなく、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。 <p><終了時の達成課題（到達目標）></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.介護の歴史や現代の介護問題を理解し、介護福祉士を取り巻く社会状況を認識できる。 2.介護の社会化の背景や少子高齢社会を担う専門職として、介護福祉士に求められる社会的役割を理解し、人間の尊厳と自立（自律）を支える介護福祉士の専門性やより高い倫理の確立に向けて努力できる。 3.高齢者や障がい者のこれまでの生活や生活観と、現代の私たちのその違いを理解した上で、その人らしい生活を支える介護実践の展開や、その生活を支える今日の社会的な制度の活用や地域での支援体制づくりが、他専門職との連携との連携しつつ模索できる姿勢が持てる。 			
	授 業 計 画			
回	月/日	テーマ	内容	備考
16	/	介護を必要とする人の理解	生活障害の視点	
17	/	介護を必要とする人の理解	認知症ケア	
18	/	介護を必要とする人の理解	生活環境の重要性①	
19	/	介護を必要とする人の理解	生活環境の重要性②	
20	/	介護を必要とする人の理解	生活環境の重要性③	
21	/	介護のはたらきと基本的視点	さまざまな生活支援①	
22	/	介護のはたらきと基本的視点	さまざまな生活支援②	
23	/	介護のはたらきと基本的視点	さまざまな生活支援③	
24	/	介護のはたらきと基本的視点	尊厳を支える介護①	
25	/	介護のはたらきと基本的視点	尊厳を支える介護②	
26	/	介護のはたらきと基本的視点	ICFの考え方①	
27	/	介護のはたらきと基本的視点	ICFの考え方②	
28	/	介護のはたらきと基本的視点	介護とリハビリテーション①	
29	/	介護のはたらきと基本的視点	介護とリハビリテーション②	
30	/	まとめと評価		
評価方法	出席状況 ②授業態度 ③課題レポート ④筆記試験（中間・終講）を総合評価する			
必須参考図書	<p><必須図書> 最新介護福祉士養成講座 3 中央法規 「介護の基本Ⅰ」 最新介護福祉士養成講座 4 中央法規 「介護の基本Ⅱ」</p> <p><参考図書></p>			
その他				

領域	科目	担当者 (職種など)	授業形態	対象	1年
介護	15.介護のコミュニケーションⅠ	山口 直美 (介護福祉士)	講義 演習	開講期	前期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	<p><授業の目的・ねらい></p> <p>・対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p> <p><授業全体の内容の概要></p> <p>1.本人のおかれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定の支援をするためのコミュニケーションの基本的技術を修得する。</p> <p>2.障がいの特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を修得する。</p> <p>3.家族のおかれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を修得する。</p> <p><授業終了時の達成課題(到達目標)></p> <p>1.介護でのコミュニケーションの意義と目的を踏まえ、介護福祉士の職務とコミュニケーションの特徴を理解する。</p> <p>2.傾聴の意義と技法、受容と共感の必要性と、言葉以外を使ったコミュニケーションの役割を理解する。</p> <p>3.さまざまなコミュニケーション障害を理解し、基本的対応や事例などから、障がいのある人を支援するコミュニケーション技術を理解する。</p>
--------	---

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	介護におけるコミュニケーションの基本		
2	/	コミュニケーションの基本技術		
3	/	目的別のコミュニケーション		
4	/	集団におけるコミュニケーション		
5	/	コミュニケーション障がいへの対応の基本		
6	/	視覚障がいのある人・聴覚障がいのある人への支援		
7	/	構音障がいのある人・失語症のある人への支援		
8	/	認知症の人への支援		
9	/	うつ病・抑うつ状態の人・統合失調症の人への支援		
10	/	知的障がいのある人・発達障がいのある人への支援		
11	/	高次脳機能障がいのある人・重症心身障がいのある人への支援		
12	/	家族との関係作り		
13	/	家族への助言・指導・調整		
14	/	家族関係と介護ストレスへの対応		
15	/	まとめ		
評価方法	授業態度 レポート 終講試験 にて総合評価する			
必須参考図書	<必須図書>最新介護福祉士養成講座5 中央法規出版「コミュニケーション技術」第2版 <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
介護	18.生活環境支援技術	鈴木 陽子 (介護福祉士)	講義 演習	開講期	前期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	<授業の目的・ねらい>
	・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。
	<授業全体の内容の概要>
	1.生活支援の基礎を理解する 2.自立に向けた居住環境の整備を理解する。
授業概要など	<授業終了時の達成課題(到達目標)>
	1.生活支援の基本的な考え方に基づき介護過程・チームアプローチの実践を理解する。
	2.居住環境の役割と機能をふまえ、生活空間・室内環境の維持管理の必要性を理解する。
	3.居住環境の整備における多職種との連携を理解する。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	生活支援の基本的な考え方	生活支援とは何か・ ライフサイクルと生活の豊かさ・ 生活支援のポイント	
2	/	生活支援と介護過程 ①		
3	/	生活支援と介護過程 ②		
4	/	生活支援とチームアプローチ ①	生活支援における チームアプローチの重要性	
5	/	生活支援とチームアプローチ ②	ライフステージと チームアプローチのあり方	
6	/	住まいの役割と機能 ①		
⑦	/	住まいの役割と機能 ②	家族と生活空間・住まいと地域	
8	/	生活空間 ①	人と空間	
9	/	生活空間 ②	加齢と生活空間	
10	/	快適な室内環境 ①		
11	/	快適な室内環境 ②		
12	/	安全に暮らすための生活環境 ①		
13	/	安全に暮らすための生活環境 ②		
14	/	居住環境の整備における多職種との連携 ①		
15	/	居住環境の整備における多職種との連携 ②		

評価方法	・出席状況 ・授業態度 ・終講試験 を総合評価
------	-------------------------

必須参考図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座 6 中央法規 「生活支援技術 I」第2版 <参考図書>
--------	---

その他	
-----	--

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対 象	1 年
介護	19.日常生活支援技術 I	吉村 理英 出口 秀貴 (専任教員)	講義 演習	開講期	通年
				時間数(回数)	60 (30 回)
				単位数	2
実務経験 吉村：介護福祉士として臨床経験 25 年・介護福祉士養成校助手経験 6 年 出口：介護福祉士として臨床経験 15 年・介護福祉士養成校員経験 2 年					

授業概要など	<目的・ねらい>
	・ 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。
	<全体の概要>
	・ 基本となる介護技術の専門用語の意味について理解し、介護福祉士が行う生活支援を十分に提供できるようにその根拠となる理論や技術を学ぶ。
<終了時の達成課題(到達目標)>	
・ 利用者の尊厳を大切にしながら、利用者の主体的な生活を支える介護が実践できるようになる。	

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	基本となる介護技術とは何か	オリエンテーション、実習室の使用方法	
2	/	休息・睡眠の介護	ベッドメイキング	演習
3	/	休息・睡眠の介護	シーツ交換	演習
4	/	休息・睡眠の介護		
5	/	自立に向けた移動の介護		
6	/	自立に向けた移動の介護		演習
7	/	自立に向けた移動の介護		演習
8	/	自立に向けた移動の介護		
9	/	自立に向けた身支度の介護		
10	/	自立に向けた身支度の介護		演習
11	/	自立に向けた身支度の介護		演習
12	/	自立に向けた食事の介護		
13	/	自立に向けた食事の介護		演習
14	/	自立に向けた食事の介護		演習
15	/	自立に向けた食事の介護		演習

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
16	/	自立に向けた入浴・清潔保持の介護		
17	/	自立に向けた入浴・清潔保持の介護		演習
18	/	自立に向けた入浴・清潔保持の介護		演習
19	/	自立に向けた入浴・清潔保持の介護		演習
20	/	自立に向けた入浴・清潔保持の介護		
21	/	自立に向けた排泄の介護		
22	/	自立に向けた排泄の介護		演習
23	/	自立に向けた排泄の介護		演習
24	/	自立に向けた排泄の介護		
25	/	自立に向けた移動の介護		
26	/	休息・睡眠の介護		
27	/	自立に向けた生活支援		
28	/	自立に向けた生活支援		
29	/	自立に向けた生活支援		
30	/	まとめ		
評価方法	①出席状況 ②授業・演習態度 ③各項目技術試験 ④中間試験（筆記）⑤終講試験（筆記・技術）を総合評価する			
必須参考図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座 6 中央法規 「生活支援技術Ⅰ」第2版 最新介護福祉士養成講座 7 中央法規 「生活支援技術Ⅱ」 <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
介護	20.日常生活支援技術Ⅱ	津村一美(手話) 竹之内康(点字) 野口清孝 (介護福祉士)ほか	講義 演習	開講期	通年
				時間数(回数)	60(30回)
				単位数	2

授業概要など	<津村一美(手話) 竹之内康(点字)>
	<目的・ねらい> ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。
	<全体の概要> 1.言語・コミュニケーション技術のひとつである点字や手話の技法の学習を通じて、視覚や聴覚に障がいがある人への理解を深め、その支援の在り方を考える。
	<終了時の達成課題(到達目標)> 1.点字・手話の技法を学び実践する。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	点字		
2	/	点字		
3	/	点字		
4	/	点字		
5	/	点字		
6	/	点字		
7	/	点字		
8	/	手話		
9	/	手話		
10	/	手話		
11	/	手話		
12	/	手話		
13	/	手話		
14	/	手話		
15	/	手話		

評価方法	① 授業態度 ②提出レポート ③中間試験 ④終講試験 総合評価
必須参考図書	<必須図書>最新介護福祉士養成講座6 中央法規 「生活支援技術Ⅰ」第2版 <参考図書>
その他	

授業概要など	<p><野口清孝（介護福祉士）ほか></p> <p><目的・ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。 <p><全体の概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.災害時における生活支援を理解する。 2.応急手当の知識と技術を理解する。 <p><終了時の達成課題（到達目標）></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.災害時における介護福祉職の役割と生活支援の実際を理解する。 2.応急手当の基礎知識と手当の実践を理解する。 			
	授 業 計 画			
回	月/日	テーマ	内容	備考
16	/	応急手当の知識と技術		
17	/	応急手当の知識と技術		
18	/	応急手当の知識と技術		
19	/	応急手当の知識と技術		
20	/	応急手当の知識と技術		
21	/	応急手当の知識と技術		
22	/	応急手当の知識と技術		
23	/	災害時における生活支援		
24	/	災害時における生活支援		
25	/	災害時における生活支援		
26	/	災害時における生活支援		
27	/	災害時における生活支援の実際		
28	/	災害時における生活支援の実際		
29	/	災害時における生活支援の実際		
30	/	災害時における生活支援の実際		
評価方法	①授業態度 ②提出レポート ③中間試験 ④終講試験 総合評価			
必須参考図書	<p><必須図書>最新介護福祉士養成講座 6 中央法規 「生活支援技術Ⅰ」第2版</p> <p><参考図書></p>			
その他				

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
介護	22.家事生活支援技術	清水 千幸 永田 桂子	講義 演習	開講期	後期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p>①食生活の意義を理解させ管理する能力を養う。</p> <p>②衣生活に関する基礎を学び、高齢者・障がい者の生活を支援する能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>①自立に向けた食事の介護(献立・調理)に関する基本的知識と技術を通して学ぶ</p> <p>②手縫いとミシン縫いについての基本を学ぶ</p> <p>③被服の素材・管理・役割について学ぶ</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①自立に向けた食事の介護に関する基本的知識と技術を習得する</p> <p>②基本的な調理方法を習得する</p> <p>③裁縫の基礎的技術を習得する</p> <p>④被服についての基礎知識を習得し、支援することができる</p>
--------	---

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	ミシン縫いの基礎 …演習		
2	/	手縫い練習 …演習		
3	/	三つ折り縫い、普通まつり …演習		
4	/	ボタン付、たてまつり …演習		
5	/	被服の素材(天然繊維、化学繊維) …講義		
6	/	被服の管理(洗濯、漂白、しみぬき)…講義		
7	/	被服の役割(体温調節 他) …講義		
8	/	自立した家事とは		
9	/	自立した家事とは		
10	/	調理実習① (湿式加熱、乾式加熱、誘電加熱、誘導加熱) 料理について		
11	/	調理実習① (湿式加熱、乾式加熱、誘電加熱、誘導加熱) 料理について		
12	/	調理実習②(おかゆ、おもゆ、刻み、トロミ) など		
13	/	調理実習②(おかゆ、おもゆ、刻み、トロミ) など		
14	/	調理実習③(減塩食、糖尿食) など		
15	/	調理実習③(減塩食、糖尿食) など		

評価方法	出席・授業態度・実習の提出物・筆記試験の総合評価とする
必須参考図書	<必須図書>最新介護福祉士養成講座6 中央法規出版 「生活支援技術I」第2版 <参考図書>
その他	

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
介護	24.介護過程論	中西 美枝子 (介護福祉士)	講義 演習	開講期	通年
				時間数(回数)	60(30回)
				単位数	2

授業概要など	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。</p> <p>[授業全体の概要]</p> <p>①介護過程の意義と基礎的理解 ②介護過程とチームアプローチ ③介護過程の展開理解</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①介護過程の意義と目的について理解し、ICFの資料を用い情報収集を行い、介護過程に必要なPDCAなどの思考過程を理解する。 ②個別援助計画の立案に向け、根拠に基づいた課題抽出、目標を立案できる。 ③実習を通して、実践に必要な技術の確認、社会資源の活用、道具の準備等、利用者の状態や状況に応じた根拠に基づいた介護過程の展開ができる。</p>
--------	---

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	介護過程とは(意義・目的・全体像)		
2	/	介護過程とICF		
3	/	生活支援における介護過程の必要性		
4	/	介護過程と事例検討		
5	/	介護過程の理解 アセスメント		
6	/	介護過程の展開 アセスメント・立案・実施・評価		
7	/	アセスメント(情報収集) 意義・方法・ICFモデル活用		
8	/	アセスメント(解釈・関連づけ・統合化) 生活課題の明確化・視点・実際		
9	/	アセスメント(解釈・関連づけ・統合化) 情報の質と量の大切さを考える		
10	/	介護計画の立案 目標設定・具体的支援内容・ 支援方法の決定		
11	/	介護の実施 留意点・実施の記録		
12	/	評価意義と目的・評価の内容と方法		
13	/	評価 介護過程における評価の確認		
14	/	事例問題①		
15	/	事例問題②		

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
16	/	介護過程の実践的展開		
17	/	「介護過程」展開の実際 (グループホームにおける認知症高齢者の事例)		
18	/	「介護過程」展開の実際 (脳性麻痺のある男性の事例)		
19	/	「介護過程」展開の実際 (在宅における脳血管疾患のある女性の事例)		
20	/	「介護過程」展開の実際 (介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性の事例)		
21	/	介護過程とケアマネジメントの関係性 (ケアマネジメントの全体像)		
22	/	介護過程とケアマネジメントの関係性 (ケアプランと個別援助計画の関係性)		
23	/	チームアプローチにおける介護福祉士の役割		
24	/	利用者の様々な生活と介護過程の展開		
25	/	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開①		
26	/	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開②		
27	/	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開③		
28	/	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開④		
29	/	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開⑤		
30	/	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開⑥		
評価 方法	①出席状況②授業態度③中間試験④終講試験			
必須 参考 図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座 9 中央法規出版「介護過程」第2版 <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者（職種など）	授業形態	対象	1年
介護	25.介護過程演習Ⅰ	野口 清孝 (介護福祉士)	講義 演習	開講期	通年
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	[授業の目的・ねらい] 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行う。
	[授業全体の内容の概要] ①介護過程を行う意義・目的を解説し、情報の収集・関連付け・分析を行うことができる。 ②利用者の生活の質の向上に向けて生活上の課題を把握し必要な介護のあり方を個別に考察し計画を立てる方法を、演習を通し理解する。
	[授業終了時の達成課題（到達目標）] ①ICFの考え方を活用した情報収集の方法を理解する。 ②演習を通して介護過程に必要な思考過程について理解する。 ③事例をもとに介護計画の立案ができる。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	オリエンテーション（授業の進め方） 日常生活から介護過程とはなにかを考える①		
2	/	日常生活から介護過程とはなにかを考える②		
3	/	個別介護計画表 NO1、2 記入方法 （要介護度、障害者等級について）		
4	/	事例をもとに個別介護計画 NO1,2 を記入		
5	/	個別介護計画表 NO3 記入方法 （日常生活での実行状況、評価・訓練時の能力について）		
6	/	事例をもとに個別介護計画 NO3 を記入		
7	/	個別介護計画表 NO4 記入方法（アセスメントについて）		
8	/	事例をもとに個別介護計画 NO4 を記入		
9	/	個別介護計画表 NO5 記入方法 （長期目標、短期目標、具体策について）		
10	/	事例をもとに個別介護計画 NO5 を記入		
11	/	実習時のアセスメントについて①		
12	/	実習時のアセスメントについて②		
13	/	実習時の介護計画立案について		
14	/	実習後の個別介護計画の振り返り①		
15	/	実習後の個別介護計画の振り返り②		

評価方法	出席状況 授業態度課題レポート筆記試験
------	------------------------

必須参考図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座 9 中央法規出版「介護過程」第2版 <参考図書>
--------	--

その他	
-----	--

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
こころとからだのしくみ	33. 発達と老化の理解 I	赤坂久子 (看護師)	講義	開講期	前期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	[授業目的・ねらい] ①ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を学ぶ。
	[授業全体の概要] ①人間の成長と発達の基本的な考え方を理解する。 ②老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多く見られる疾病と生活への影響、健康の維持増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する。
	[授業目標] ①人間のそれぞれの発達段階における生理・心理的特徴を理解する。 ②老年期とそこでの発達課題を達成する上で重要となる、ポジティブリティ、セクシャリティ、サクセスフル・エイジングをめぐる視点について理解する。 ③高齢者の心理や行動に与えやすい要因を知るとともに、個人差が大きいことを学ぶ。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	1.人間の成長と発達の基礎的知識 ①成長・発達の考え方		
2	/	②成長・発達の原則・法則		
3	/	③成長・発達に影響する要因		
4	/	2.人間の発達段階と発達課題 ①発達理論		
5	/	②発達段階と発達課題		
6	/	③身体的機能の成長と発達		
7	/	④心理的機能の発達		
8	/	⑤社会的機能の発達		
9	/	3.老年期の特徴と発達課題 ①老年期の定義		
10	/	②老化とは		
11	/	③老化期の発達課題		
12	/	④老年期をめぐる今日的課題		
13	/	4.老化にともなうこころとからだの変化と生活 ①老化にともなう身体的な変化と生活への影響		
14	/	②老化にともなう心理的な変化と生活への影響		
15	/	③老化にともなう社会的な変化と生活への影響		

評価方法	筆記試験、レポートなどにより評価
必須参考図書	<必須図書> 最新 介護福祉士養成講座12 中央法規出版 「発達と老化の理解」第2版 <参考図書>
その他	

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
こころとからだのしくみ	34.発達と老化の理解Ⅱ	赤坂 久子 (看護師)	講義	開講期	後期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	[授業の目的・ねらい] ・ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を学ぶ。
	[授業全体の概要] ・老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多く見られる疾病と生活への影響、健康の維持増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する。
	[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ライフサイクル各期に多い疾病・障害について理解し、観察点や健康の維持・増進の視点も含め必要な支援を考察し説明できる。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	健康長寿に向けての健康		
2	/	高齢者に多い症状・疾患の特徴①		
3	/	高齢者に多い症状・疾患の特徴②	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	
4	/	骨格系・筋系 脳・神経系		
5	/	皮膚・感覚器系		
6	/	循環器系		
7	/	呼吸器系		
8	/	腎・泌尿器系		
9	/	内分泌・代謝系		
10	/	歯・口腔疾患		
11	/	悪性新生物		
12	/	感染症		
13	/	精神疾患		
14	/	その他		
15	/	保健医療職との連携		

評価方法	筆記試験により評価
必須参考図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座12 「発達と老化の理解」第2版 中央法規出版 <参考図書>
その他	

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
こころとからだのしくみ	35.認知症の理解Ⅰ	城戸 由香里 (公認心理師)	講義 演習	開講期	後期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	[授業の目的・ねらい]
	① 認知症のある人の生活を支える視点より医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾患の基礎的な知識を身につける。
	[授業全体の概要]
	① 認知症を取り巻く状況をふまえ、認知症を引き起こす疾患の特徴と、主な症状、心身の変化、生活への影響を理解する。
	[授業終了時の達成課題(到達目標)]
	① 認知症の原因となる代表的な疾患と、中核症状および特徴的な行動・心理症状を学び、生活への影響と関連させて理解する。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	認知症のある高齢者の現状と今後 認知症とは何か		
2	/	脳のしくみ		
3	/	認知症の人の心理		
4	/	中核症状の理解①		
5	/	中核症状の理解②		
6	/	生活障害の理解		
7	/	BSTD の理解		
8	/	認知症の診断と重症度		
9	/	重複病変・アルツハイマー型認知症		
10	/	血管性認知症・レビー小体型認知症		
11	/	前頭側頭型認知症・治療可能な認知症		
12	/	認知症の原因疾患の鑑別・若年性認知症		
13	/	認知症の治療薬		
14	/	認知症の予防		
15	/	まとめ		

評価方法	筆記試験により評価
必須参考図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座13 中央法規出版 「認知症の理解」第2版 <参考図書>
その他	

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
こころとからだのしくみ	37.障害の理解Ⅰ	宮崎一哉 (社会福祉士)	講義	開講期	前期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	[授業の目的・ねらい]
	①障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。 ②障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。
	[授業全体の内容の概要]
	①障害の基礎的理解 ②障害の医学的・心理的側面の基礎的理解
授業終了時の達成課題(到達目標)	[授業終了時の達成課題(到達目標)]
	①障害の概念や障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解する。 ②医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解する。 ③障害のある人のライフステージや障害の特性をふまえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解しQOLを高める支援を理解する。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	障害の概念と障害者福祉の基本理念	障害の概念	
2	/	障害の概念と障害者福祉の基本理念	障害者福祉の基本理念	
3	/	障害の概念と障害者福祉の基本理念	障害者福祉に関連する制度・ 障害者福祉制度と介護保険制度	
4	/	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	障害のある人の心理	
5	/	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	肢体不自由(運動機能障害)	
6	/	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	視覚障害	
7	/	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	聴覚・言語障害	
8	/	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	重複障害	
9	/	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	内部障害:心機能障害	
10	/	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	内部障害:呼吸器機能障害	
11	/	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	内部障害:腎臓機能障害	
12	/	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	内部障害:膀胱・直腸機能障害・ 小腸機能障害	
13	/	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	内部障害:ヒト免疫不全ウイルスによる 免疫機能障害・肝臓機能障害	
14	/	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	重症心身障害	
15	/	まとめ		
評価方法	①出席率 ②授業態度・グループ活動への参加度、貢献度 ③レポート提出率と内容(小テスト込) ④終講試験 総合評価			
必須参考図書	<必須図書>最新介護福祉士養成講座14 中央法規出版 「障害者の理解」第2版 <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
こころとからだのしくみ	38.障害の理解Ⅱ	宮崎 一哉 (社会福祉士)	講義	開講期	後期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。</p> <p>②障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の概要]</p> <p>①障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援</p> <p>②連携と協働</p> <p>③家族への支援</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する。</p> <p>②障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の需要段階や介護力に応じた支援を理解する。</p>
--------	--

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ	知的障害①	
2	/		知的障害②	
3	/		精神障害①	
4	/		精神障害②	
5	/		高次脳機能障害①	
6	/		高次脳機能障害②	
7	/		発達障害①	
8	/		発達障害②	
9	/		難病①	
10	/		難病②	
11	/		連携と協働①	
12	/		連携と協働②	
13	/		家族への支援①	
14	/		家族への支援②	
15	/	まとめ		
評価方法	①出席率 ② 授業態度・グループ活動への参加度、貢献度 ③レポート提出率と内容(小テスト込) ④ 終講試験 など 総合評価			
必須参考図書	<必須図書>最新介護福祉士養成講座14 「障害者の理解」第2版 中央法規出版 <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
こころとからだのしくみ	39.こころとからだのしくみ I	徳永 智恵美 (専任教員・看護師)	講義 演習	開講期	前期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1
実務経験：看護師としての臨床経験24年・介護福祉士養成校教員経験7年その他教育歴11年					

授業概要など	(GIO) 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践に必要な観察力・判断力の基盤となる人間の心理・人体の構造と機能の基礎的な知識と技術を理解する。
	到達目標 (SBOs)・「健康」とは何か、阻害する要因は何かを説明することができる。 ・「人間の欲求」「自己実現と尊厳」について説明することができる。 ・「こころのしくみ」について理解を深めることができる。 ・「利用者の生命と生活を支える知識と技術」の必要性を理解し、説明することができる。 ・「利用者の生命と生活を支える技術」を実施することができる。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	「こころとからだのしくみ I」について	教育課程における「こころとからだのしくみ I」の位置付け・意義を説明する。	
2	/	「健康」とは何か ①	「健康」「ポジティブヘルス」について討議する。	
3	/	「健康」とは何か ②	「健康」について再度考える。 他者との違いを知り、受容する。	
4	/	「人間の欲求」「自己実現と尊厳」①	人間の欲求、自己概念、自立への意欲、自己実現と尊厳、などについて理解する。	
5	/	「人間の欲求」「自己実現と尊厳」②	グループ討議で、考えを深める。	
6	/	「人間の欲求」「自己実現と尊厳」③	グループ討議で、考えを深める。	
7	/	「こころのしくみ」①	認知・学習・記憶・思考のしくみについて理解する。	
8	/	「こころのしくみ」②	適応のしくみについて理解する。 高齢者の人格と適応について理解する。	
9	/	介護福祉士としての態度	介護福祉士としての身だしなみとその根拠について理解する。	
10	/	利用者の生命と生活を支える知識と技術①	介護現場におけるフィジカルアセスメントの意義と概要を理解する。	
11	/	利用者の生命と生活を支える知識と技術②	バイタルサイン基礎知識を理解する。 バイタルサインの測定方法を理解できる。	
12	/	利用者の生命と生活を支える知識と技術③	バイタルサイン測定を実施することができる。	
13	/	利用者の生命と生活を支える知識と技術④ 清潔保持と感染予防-1	スタンダードプリコーションについて理解する。	
14	/	利用者の生命と生活を支える知識と技術⑤ 清潔保持と感染予防-2	手指衛生の目的を理解し、実施することができる。	
15	/	全体のまとめ		

評価方法	筆記試験、演習態度、課題レポート、グループワークでの学びなどを総合して評価する。
------	--

必須参考図書	<必須図書> 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ (第2版) 中央法規 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア (第2版) 中央法規 <参考図書> 介護現場で活かすフィジカルアセスメント 中央法規
--------	--

その他	
-----	--

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
こころとからだのしくみ	40.こころとからだのしくみⅡ	徳永 智恵美 (専任教員・看護師) 赤坂 久子 (看護師)	講義 演習	開講期	通年
				時間数(回数)	60(30回)
				単位数	2

授業概要など	<徳永智恵美>
	(GIO) 介護実践に必要な観察力・判断力の基盤となる人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。 介護福祉士として、医学的領域についての理解を深めることの必要性和意義を理解することができる。 (SBO)・身体各部位の名称を説明することができる。 ・身体各部位の構造と生理的機能、特徴を説明することができる。 ・生命を維持するしくみをせつめいすることができる。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	「こころとからだのしくみⅡ」について	教育課程における「こころとからだのしくみⅡ」の位置付け・意義を説明する。	
2	/	身体各部の名称	からだのつくりの理解身体各部位の名称 身体のさまざまなみかた	
3	/	細胞・遺伝・脳神経		
4	/	感覚器①		
5	/	感覚器②		
6	/	医療・福祉現場で使用される用語		
7	/	呼吸器		
8	/	循環器①		
9	/	循環器②		
10	/	消化器		
11	/	泌尿器		
12	/	骨・関節・筋肉①		
13	/	骨・関節・筋肉②		
14	/	神経・生殖器/内分泌・血液/体液/リンパ		
15	/	薬の知識 全体の振り返り		

評価方法	筆記試験、授業・演習態度、課題レポート、グループワークでの学びなどを総合して評価する。
------	---

必須参考図書	<必須図書> 介護福祉士養成講座Ⅱ こころとからだのしくみ(第2版) 中央法規 <参考図書>
--------	---

その他	
-----	--

授業概要など	<p><赤坂 久子> [授業の目的・ねらい] ①介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解する。 ②対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。 [授業全体の概要] ①生活支援技術に関連した移動、身じたく、食事におけることと身体のしくみについて学ぶ。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ①移動に関連するからだのしくみや心身の機能低下と支援の関わりを理解する。 ②身じたくに関連するからだのしくみや心身の機能低下と支援の関わりを理解する。 ③食事のしくみ・あり方、心身の機能低下との関連、観察事項を理解する。</p>			
	授 業 計 画			
回	月/日	テーマ	内容	備考
16	/	<移動に関連したところとからだのしくみ> 移動のしくみ①		
17	/	移動のしくみ②		
18	/	心身の機能低下が及ぼす影響		
19	/	変化の気づきと対応①		
20	/	変化の気づきと対応②		
21	/	<身じたくに関連したところとからだのしくみ> 身じたくのしくみ ①		
22	/	身じたくのしくみ ②		
23	/	心身の機能低下が及ぼす影響		
24	/	変化の気づきと対応 ①食事に関連したところのしくみ		
25	/	変化の気づきと対応 ②食事に関連したからだのしくみ		
26	/	<食事に関連したところとからだのしくみ> 食事のしくみ①		
27	/	食事のしくみ②		
28	/	心身の機能低下が及ぼす影響		
29	/	変化の気づきと対応①		
30	/	変化の気づきと対応②		
評価方法	①出席率 ②授業態度等 ③レポート提出率と内容（小テスト込） ④技術試験 ⑤中間試験 ⑥終講試験 総合評価			
必須参考図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座Ⅱ 中央法規出版「ところとからだのしくみ」第2版 <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	1年
医療的ケア	42.医療的ケア(講義)	塚本 真由美 (看護師)	講義	開講期	後期
				時間数(回数)	68時間(34回)
				単位数	2

授業概要など	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の概要]</p> <p>①医療的ケアを安全・適切に実施する為に必要な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①介護職員等による喀痰吸引等制度と「医療的ケア」について理解する。 ②安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性を理解する。 ③感染予防の基礎知識と滅菌・消毒の違い、消毒剤の使用上の留意点について理解する。 ④喀痰吸引とはどのようなものか、又実施の手順と留意点を理解する。 ⑤経管栄養のしくみと種類、注入する内容、実施上の留意点を理解する。 ⑥経管栄養に使用する物品や種類を具体的に学び、安全に実施する為の手順を理解する。 ⑦救急蘇生法の必要性と方法を理解する。</p>
--------	---

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	医療的ケアとは①		
2	/	医療的ケアとは②		
3	/	安全な療養生活①		
4	/	安全な療養生活②		
5	/	喀痰吸引概論①		
6	/	喀痰吸引概論②		
7	/	喀痰吸引概論③		
8	/	経管栄養概論①		
9	/	経管栄養概論②		
10	/	経管栄養概論③		
11	/	資格修得について		
12	/	清潔保持と感染予防①		
13	/	清潔保持と感染予防②		
14	/	喀痰吸引手順について①		
15	/	喀痰吸引手順について②		
16	/	経管栄養手順について①		
17	/	経管栄養手順について②		

授 業 計 画

回	月/日	テーマ・内容	備考
18	/	まとめ	
19	/	喀痰吸引とは	
20	/	人工呼吸器と吸引・子どもの吸引	
21	/	吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意・呼吸器系の感染と予防	
22	/	喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認・対応と事前対策	
23	/	喀痰吸引実施手順解説①	
24	/	喀痰吸引実施手順解説②	
25	/	喀痰吸引実施手順解説③	
26	/	まとめ	
27	/	経管栄養とは・注入する内容に関する知識	
28	/	経管栄養実施上の留意点・子どもの経管栄養について	
29	/	経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意・経管栄養に係る感染と予防	
30	/	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認・急変、事故発生時の対応と事前対策	
31	/	経管栄養実施手順解説①	
32	/	経管栄養実施手順解説②	
33	/	経管栄養実施手順解説③	
34	/	まとめ	
評価方法	筆記試験により評価 (総正解率 9 割以上で合格) ※厚生省実施要綱より		
必須参考図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座 15 中央法規出版 「医療的ケア」 第 2 版 <参考図書>		
その他			

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対 象	1 年
介護	28.介護総合演習Ⅰ	大谷 久也 吉村 理英 出口 秀貴 徳永 智恵美 (専任教員)	講義 演習	開講期	通年
				時間数(回数)	60(30回)
				単位数	2

授業概要など	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①介護実習の意義や重要性について理解し、介護福祉士に必要な基礎能力を養う</p> <p>②介護職が働く様々な施設、事業所の役割と機能を理解するとともに利用者と家族のニーズについて理解しそのニーズに対しての介護福祉士に役割について理解する。</p> <p>[授業全体の概要]</p> <p>①多様な介護サービスでの利用者の生活支援についての学習や実習準備ができ、実習Ⅰ-①・②の通所サービスや入所サービスでの利用者の生活支援についての学習や実習準備ができる。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①実習Ⅰ-①②における知識・技術などの具体的な準備ができる。さまざまな生活の場での個性ある日常生活やその個別ケアを理解し、他職種協働や関係機関との連携を通じてのチームの一員としての介護福祉士の役割について理解できるように、必要な知識や技術が確認できる。</p>
--------	--

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	介護総合演習の位置付け、目的について理解する。 (オリエンテーション)		
2	/	介護実習の意義と目的について		
3	/	実習施設の種類と理解 (介護実習Ⅰ-①で実習予定の施設の理解)		
4	/	実習施設の種類と理解 (介護実習Ⅰ-①で実習予定の施設の理解)		
5	/	実習施設の種類と理解 (介護実習Ⅰ-①で実習予定の施設の理解)		
6	/	実習要項説明		
7	/	介護実習Ⅰ-①の実習記録準備		
8	/	介護実習Ⅰ-①の実習記録準備		
9	/	介護実習Ⅰ-①の実習記録準備		
10	/	介護実習Ⅰ-①の実習記録準備		
11	/	介護実習Ⅰ-①の実習記録準備		
12	/	介護実習Ⅰ-①の帰校日における記録のまとめ		
13	/	介護実習Ⅰ-①の最終的な記録・まとめ		
14	/	介護実習Ⅰ-①の最終的な記録・まとめ		
15	/	介護実習Ⅰ-①報告会		

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
16	/	実習施設の種類と理解 (介護実習Ⅰ-②で実習する予定である施設の理解)		
17	/	実習施設の種類と理解 (介護実習Ⅰ-②で実習する予定である施設の理解)		
18	/	実習施設の種類と理解 (介護実習Ⅰ-②で実習する予定である施設の理解)		
19	/	介護実習Ⅰ-②の実習記録物準備		
20	/	介護実習Ⅰ-②の実習記録物準備		
21	/	介護実習Ⅰ-②の実習記録物準備		
22	/	介護実習Ⅰ-②の実習記録物準備		
23	/	介護実習Ⅰ-②の実習記録物準備		
24	/	介護実習Ⅰ-②の帰校日における記録のまとめ		
25	/	介護実習Ⅰ-②の帰校日における記録のまとめ		
26	/	介護実習Ⅰ-②の帰校日における記録のまとめ		
27	/	介護実習Ⅰ-②の帰校日における記録のまとめ		
28	/	介護実習Ⅰ-②の帰校日における記録のまとめ		
29	/	介護実習Ⅰ-②最終的な記録・まとめ		
30	/	介護実習Ⅰ-②報告会		
評価 方法	①出席状況 ②授業態度 ③提出物の内容・提出率 ④報告会の評価 ⑤中間・終講試験			
必須 参考 図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座 10 中央法規出版 「介護総合演習・介護実習」第2版 大川看護福祉専門学校介護福祉学科研修及び実習に関する要綱 <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者（職種など）	授業形態	対 象	1 年
介護	30.実習 I - ①	大谷 久也 吉村 理英 出口 秀貴 徳永 智恵美 (専任教員)	講義 演習	開講期	前期
				時間数（回数）	75 時間
				単位数	2

授業概要など	<p>[実習の目的・ねらい]</p> <p>①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</p> <p>[実習全体の概要]</p> <p>①サービス利用者の生活の場として、多様な介護の場における実習。利用者の理解を中心とし、利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の理解、介護技術の確認等を行う。</p> <p>[実習終了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>①対象者との触れ合いを通して人間の基本的な欲求とそこにかかわる介護の機能や、施設職員の一般的な役割について理解できる。</p>
--------	--

授 業 計 画

月/日	テーマ	内 容	備考
/ ~ /	介護施設において 10 日間の介護実習 を行う。	1)施設の概要や、様々な機能・役割を理解する。	
		2)施設における業務内容を理解する。	
		3)コミュニケーション技法を活かして、利用者との関係を図る。	
		4)日常の介護技術を見学から始め、体験する。	
		5)実習中の反省を通して、自己の課題を明確にする。	
		6)介護福祉士としての役割について考え、専門職としての自覚をもって行動できるようにする。	

評価方法	<p>①実習指導者評価 ②記録等の提出率 ③グループメンバーとしての協力度 ④実習態度 以上の総合評価</p>
------	---

必須参考図書	<p><必須図書>最新介護福祉士養成講座 10 中央法規出版「介護総合演習・介護実習」第2版 大川看護福祉専門学校介護福祉学科 研修及び実習に関する要綱</p> <p><参考図書></p>
--------	--

その他	
-----	--

領域	科目	担当者（職種など）	授業形態	対象	1年
介護	31.介護実習Ⅰ-②	大谷 久也 吉村 理英 出口 秀貴 徳永 智恵美 (専任教員)	実習	開講期	通年
				時間数(回数)	180時間
				単位数	4

授業概要など	[実習全体の目的・ねらい] ①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割と個別介護計画の必要性について理解する。
	[実習全体の概要] ①サービス利用者の生活の場として、多様な介護の場における実習。利用者の理解を中心とし、利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の理解、介護技術の確認、介護過程などを行う。
	[実習終了時の達成課題（到達目標）] ①個別介護計画の立案ができる。 ②障害のレベルについて求められる、介護技術の適正な使い方と、専門的視野に立った評価の方法について学ぶことができる。 ③他の各種専門職の役割や協力関係の必要性を理解できる。 ④施設の運営や在宅との連携、また障害者や要介護高齢者の援助全般における介護の職務について理解を深める。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
	/	介護老人福祉施設・グループホーム・介護老人保健施設・障害者施設において24日間の介護実習を行う。	1)個別介護計画の立案を学ぶ。	
	~		2)日常生活での安全安楽に配慮した介護技術の実践方法を学ぶ。	
	/		3)介護福祉士としての職業倫理、社会的役割、使命などについて考え、組織の一員としての責任とチームワーク、ケアの重要性自覚することができる。	
			4)24時間のケアを通し、利用者の生活全般を理解し、介護の在り方を考える。	
			5)生活過程に応じたケアのあり方について学ぶ。	
			6)地域社会と施設の関係について理解し、家族、地域へのはたらきかけについて学ぶ。	
			7)訪問介護の特性を知り、地域連携と社会資源の活用を学ぶ。	
評価方法		①実習指導者評価 ②記録等の提出率 以上の総合評価	③グループメンバーとしての協力度 ④実習態度	
必須参考図書		<必須図書>最新介護福祉士養成講座10 中央法規出版 「介護総合演習・介護実習」第2版 大川看護福祉専門学校介護福祉学科研修及び実習に関する要綱 <参考図書>		
その他				

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
介護	29.介護総合演習Ⅱ	出口 秀貴 徳永 智恵美 大谷 久也 吉村 理英 (専任教員)	講義 演習	開講期	通年
				時間数(回数)	60(30回)
				単位数	2

授業概要など	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに介護観を形成し、専門職としての態度を養う。</p> <p>②実習Ⅱに向けての個別ケアのための介護過程の展開方法を理解する。</p> <p>③実習Ⅱの振り返りや実践した介護過程のまとめや報告ができる。</p> <p>[授業全体の概要]</p> <p>①個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題の明確化、介護計画の作成、実習後の評価、計画の修正といった介護過程の展開の理解を深めていく。</p> <p>②介護実習Ⅱで展開した介護過程を介護事例研究として発表する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①介護過程の展開のために個別の学習到達状況に応じた他科目で学習した知識や技術の総合ができ、介護実習で実践できる。</p> <p>②介護事例研究を通して、様々な書物を読み、実践した介護過程を振り返ることができる。</p>
--------	--

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	実習要項の説明		
2	/	実習施設の理解		
3	/	実習施設の理解		
4	/	介護実習Ⅱの実習記録準備		
5	/	介護実習Ⅱの実習記録準備		
6	/	介護実習Ⅱの実習記録準備		
7	/	介護実習Ⅱの実習記録準備		
8	/	介護実習Ⅱの実習記録準備		
9	/	介護実習Ⅱの実習記録準備		
10	/	介護実習Ⅱの登校日における記録のまとめ		
11	/	介護実習Ⅱの登校日における記録のまとめ		
12	/	介護実習Ⅱの登校日における記録のまとめ		
13	/	介護実習Ⅱの登校日における記録のまとめ		
14	/	介護実習Ⅱの登校日における記録のまとめ		
15	/	介護実習Ⅱの最終的な記録のまとめ		

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
16	/	自分史作成		
17	/	自分史作成		
18	/	自分史作成		
19	/	自分史作成		
20	/	自分史作成		
21	/	自分史作成		
22	/	自分史作成		
23	/	エンディングノート作成		
24	/	エンディングノート作成		
25	/	エンディングノート作成		
26	/	エンディングノート作成		
27	/	エンディングノート作成		
28	/	エンディングノート作成		
29	/	介護観について		
30	/	介護観について		
評価方法	①出席状況 ②授業態度 ③提出物の内容・提出率 ④報告会の評価 ⑤中間・終講試験 総合評価			
必須参考図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座 10 中央法規出版「介護総合演習・実習」第2版 大川看護福祉専門学校介護福祉学科 研修及び実習に関する要綱 <参考図書> <参考図書>			
その他				